

**第2次南アルプス市総合計画  
後期基本計画・施策マネジメントシート**

作成日：令和5年 7月18日

更新日：

政策No.	3	政策名	うるおいと活力のある 快適なまちの形成	施策主管課	都市計画課
施策No.	23	施策名	都市空間の整備	施策主管課長名	小宮山 勝己
施策関連課名		政策推進課、南アルプスIC新産業拠点整備室、管理住宅課			

**1 施策の目的と指標**

(1)対象(誰、何を対象としているのか) ※人や自然資源等	市民	(3)対象指標(対象の大きさを表す指標)	A 人口	単位	人
(2)意図(この施策によって対象をどう変えるのか)	安全・快適な都市空間で生活する。	(4)成果指標(意図の達成度を表す指標)	① 街並みや景観は美しいと感じる市民の割合	単位	%
成果指標設定の考え方	① 街並みや景観への市民の評価を示す／街並みや景観が美しいと感じる市民が多いほど、快適な都市空間であるといえるので、成果指標とした。 ② 居住空間としての市民の評価を示す／安全で快適な都市空間が形成されていれば、その中で生活する市民が住みやすい地域だと感じるので、成果指標とした。	② 南アルプス市は住みやすい地域だと感じている市民の割合	③		
成果指標の測定方法	① 市民アンケート『市内の街並みや景観は美しいと感じますか』において、「あてはまる」「ややあてはまる」と回答した人の割合 ② 市民アンケート『南アルプス市は住みやすい地域だと感じますか』において、「あてはまる」「ややあてはまる」と回答した人の割合	④			

**2 指標等の推移**

指標名	単位	数値区分	前期基本計画					後期基本計画				
			H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度
対象指標 A 人口	人	見込み値					71,089	70,568	70,041	69,521	68,996	68,430
		実績値	72,305	72,018	71,880	71,602	71,370	71,249	71,395	71,434		
		見込み値										
成果指標 ① 街並みや景観は美しいと感じる市民の割合	%	目標値	53.8	54.6	55.4	56.2	57.0	54.8	55.6	56.4	57.2	58.0
		実績値	55.7	55.6	57.3	45.2	47.0	49.9	51.9	48.3		
		目標値	70.0	70.5	71.0	71.5	72.0	68.8	69.6	70.4	71.2	72.0
		実績値	65.4	70.2	70.6	62.5	61.7	70.1	68.5	66.8		
② 南アルプス市は住みやすい地域だと感じている市民の割合	%	目標値										
③		目標値										
④		目標値										
目標設定の考え方・理由(可能性と必然性)												
①	前期4年間の実績値の推移からは傾向が見えづらいため、平均値を成り行き値とした。H22年度以降、アンケート結果は50%程度で推移しており、H29年度の実績値(57.3%)が過去最高値であったが、H30年度の実績値は大幅に低下しているため、最終年度(R6年度)には過去最高の水準とすることを目指し、目標値を58.0%とした。											
②	前期4年間の実績値の振れ幅が大きく傾向が見えづらいため、平均値を成り行き値とした。前期期間のアンケート結果でH28、H29は70%を超えたが、いずれも前期の目標値(72.0%)に達していないため、後期の目標値を前期の目標値と同じ72.0%に設定した。											
③												
④												

**3 施策の役割分担**

①市民(市民、事業所、地域、団体)の役割(住民が自助でやるべきこと、地域やコミュニティが共助でやるべきこと、行政と協働でやるべきこと)	②行政(市、県、国)の役割(協働を進めるため市がやるべきこと、県がやるべきこと、国がやるべきこと)
景観保全に向けた意識をもつ。 建築物等への景観色の積極的な採用。 積極的な美化活動・景観保全活動への参加(市民、地域)。 土地の適正管理。	景観に関する広義の周知(風景・史跡・色使い等)。 開発申請に対する適切な指導。 屋外広告物に対する適切な指導。

**4 施策の状況変化・住民意見等 ※目標設定の前提とした後期基本計画策定時点の状況変化・住民意見等を記載しています。**

①施策を取り巻く状況変化(対象や根拠法令等は、今後(~R6年度末を見越して)どのように変化するか?)	②関係者からの意見・要望(この施策に対して住民(対象者、納税者、関係者)、議会からどんな意見や要望が寄せられているか?)
人口減少等の社会問題のため、地域自治会の活力低下により景観保全活動等がなくなる懸念がある。 国の施策としては、立地適正化計画を作成し、コンパクトシティを目指す流れが強くなるのでは。	土地利用の方針を明確に示すように議会質問で上がっている。 個別事務事業に関し、身近な公園の整備・修繕要望がアンケートの自由意見に寄せられている。

**5 予算等の推移**

※当初予算。骨格予算の年度は6月補正後

区分	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度
関連事業本数	28	28	30	35	
関連事業予算額(単位:千円)	150,830	146,515	299,976	456,951	
国庫支出金	13,000	0	36,170	56,709	
県支出金	131	341	152	3,255	
地方債	11,700	0	104,400	148,900	
その他	5,156	25,707	9,121	66,511	
一般財源	120,843	120,467	150,133	181,576	

(1)目標達成度(目標値との比較)		※背景・要因と考えられること(根拠となる実績値、判断理由など)
<input type="checkbox"/> 目標より高い実績値だった <input type="checkbox"/> どちらかといえば目標より高い実績値だった <input type="checkbox"/> 目標どおりの実績値だった <input checked="" type="checkbox"/> どちらかといえば目標より低い実績値だった <input type="checkbox"/> 目標より低い実績値だった		・まちづくり指標① 目標値より 8.1%下回った。 各自治会で環境美化活動を推進していることなど、景観保全への関心は比較的高く向上している。しかし、耕作放棄地、雑木雑草の繁茂などの自然的要素の他、個性的な外観の建築物や管理の行き届かなくなった住宅が増加していることにより、周囲との調和が保てなくなっているのが下回る要因と考える。 ・まちづくり指標② 目標値より 3.6%下回った。 「住みやすい地域と感じている」方の肯定者は66.8%で満足度は高い、風水害が少なく安全性が高い半面で、指標①の要因が影響したと考える。
(2)時系列比較(どのように変化してきたか)		※背景・要因と考えられること(根拠となる実績値、判断理由など)
<input type="checkbox"/> 成果がかなり向上した <input type="checkbox"/> 成果がどちらかといえば向上した <input checked="" type="checkbox"/> 成果はほとんど変わらない(横ばい状態) <input type="checkbox"/> 成果がどちらかといえば低下した <input type="checkbox"/> 成果がかなり低下した		・まちづくり指標① 前年度実績値より3.6%下回った。 「景観を守る活動」や「公園利用」も含め、都市空間に関する評価は、昨年を下回っているが、過去3年間を比較すると、微増微減を繰り返していることからほぼ横ばいに推移していると考え。 ・まちづくり指標② 前年度実績値より1.7%下回った。 過去3年間比較しても、約7割が「住みやすい」と評価をしている点では、住環境に大きな変化を与える要因は無いと考える。
(3)他団体比較(近隣他市、県・国との比較など)		
<input type="checkbox"/> かなり高い成果水準である <input type="checkbox"/> どちらかといえば高い成果水準である <input checked="" type="checkbox"/> ほぼ同水準である <input type="checkbox"/> どちらかといえば低い成果水準である <input type="checkbox"/> かなり低い成果水準である		・まちづくり指標① 南アルプス市(66.2%)、甲斐市(62.6%)、韮崎市(78.8%) ・まちづくり指標② 南アルプス市(79.6%)、甲斐市(87.0%)、韮崎市(80.7%) ・上記の結果、同水準であると判断されるが、甲斐市、韮崎市は、駅やバスターミナルがあり利便性等で本市より条件が良いはずであるが、同水準であることは、本市の街並み、景観やなど住環境が優れていると考える。 比較条件 ・隣接の甲斐市(R1調査時)、韮崎市(R5調査時)の値は、指標や設問などに違いがあるので単純比較はできないため、満足度調査の数値を参考にした。 ・本市評価値は、他市の調査内容に整合させるため、市民アンケート結果の肯定者と中立者を按分した数値とした。

7 基本計画期間における施策方針

(1)施策の基本方針
<ul style="list-style-type: none"> <li>開発案件等の適切な指導や既存施設の維持管理により、みどり豊かな街並みの保全を図り、次世代を担う子どもたちが故郷に誇りと愛着を持てるような都市空間を整備する。</li> <li>南アルプスインターチェンジ周辺と、これにつながる新山梨環状道路沿線については、新交通網を活かした成長産業の集積など、新たな都市機能の構築を目指す。</li> </ul>

8 施策の目標達成のための基本事業の今年度(R5年度)の取組(事務事業)状況・今後の課題と次年度(R6年度)の方針

基本事業	今年度(R5)の取組(事務事業)状況及び今後の課題	次年度(R6)の方針
1 秩序ある土地利用の推進	取組 ・開発行為は、都市計画法、市要綱に基づき適正な指導 ・マスタープランの見直しに向け、土地利用方針の検討 課題 ・都市計画法は、規制を伴うため、適切な許可基準の運用に努め秩序あるまちづくりの誘導 ・人口減少、高齢者の急激な増加や自然災害の激甚化や増加との予測に伴いコンパクトなまちづくりの形成すべきという国の施策がある。 ・国の施策に対応するためには、立地適正化計画に基づき、医療福祉、商業等の都市機能及び住居の居住誘導区域、機能誘導区域の設定、公共交通ネットワークの整備など集約型都市機能の構築というの難しい課題がある。 ・開発行為においては、無指定地域の農業との健全な調和を図るため、事前の協議及び許可がなければならない。	土地の適正管理 ・開発行為の、都市計画法及び要綱の適正な運用と指導 ・都市計画基礎調査の結果をもとに、総合計画に即した土地利用の方針の検討
2 住みやすい住空間の整備	取組 ・良好な都市空間の提供を目的に、住空間の環境維持、アメニティとしての都市公園の再整備や維持管理、景観保全による良好な地域環境の形成のための適正な指導と啓発 課題 ・まちの現状認識と将来像を想像し、良好な市街地の環境形成、保持及び景観づくりの啓発 ・違法屋外広告物の是正指導	安全で快適な都市空間の形成 ・住環境の維持 ・都市公園の安全性の向上、適切な維持管理 ・景観保全の適正な指導と啓発。 ・違法屋外広告物の是正指導の推進。
3 拠点都市機能の整備	取組 ・都市計画基礎調査を実施し、都市計画マスタープランの改正に向けた都市づくりのため庁内での連携と研究 課題 ・南IC周辺整備事業の庁内部局と連携した業務を推進し土地利用方針の協議検討及びマスタープラン改正の研究 ・都市計画は、私権の制限を伴うとともに、十分な合意形成が無ければ設定できないことから、市の最上位計画(総合計画)への位置付けが必要である。	拠点の創出 ・都市機能の集積や居住空間の創出 ・基幹産業である農業との健全な調和 ・機能的かつ文化的な都市活動の確保 ・適正な制限のもとでの合理的な土地利用
4		
5		